第４２回黒部川土砂管理協議会

資料－６

平成２９年度連携排砂計画及び連携排砂に伴う
環境調査計画に関する関係団体からの意見と対応について

【平成２９年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	①　近年、連携排砂時に宇奈月ダムから大量の堆積土砂が流出している。 この流出土砂は、生態系や漁場環境に大きな負荷をかけているという点において、出し平ダムの排砂によるものと何ら変わるものではない。 宇奈月ダムでは、今後も安定河床に向けて排砂と同様の状況が続くと考えられることから、漁場環境及び漁業への影響がより少ない新たな排砂・通砂方法を検討するとともに、漁場環境の改善策等を検討のうえ実施されたい。	①　第４５回黒部川ダム排砂評価委員会において、「連携排砂による一時的な環境の変化はあるものの、９月以降の調査結果から水質、底質及び生物相に対して大きな影響を及ぼしたとは考えられない」との評価を頂いていており、宇奈月ダムの堆積土砂も含め、連携排砂により流出した土砂が直接的に生態系や漁場環境に大きな影響を与えている状況にはないと考えられます。 しかしながら、一度の連携排砂により、多くの土砂流出があることは、環境への影響が懸念されると思われることから、より自然に近い形での土砂移動が実現できるよう、今後もより良い連携排砂・通砂の方法について検討して参ります。また、漁場環境の改善策については、環境への影響も踏まえつつ、どのようなことができるか、関係機関とも相談しながら検討して参ります。

【平成２９年度連携排砂等の実施計画について】

関 係 団 体 名	関 係 団 体 の 意 見	対 応 状 況
海面漁業関係団体	②　宇奈月ダムからの堆積土砂の流出が増大していることを踏まえ、現在行われている環境調査地点の他に、魚介類等への影響が大きいと考えられる浅海域（水深10m以内）の底質調査を追加されたい。	②　過去から継続的に実施している調査地点20点のうち浅い部分の調査地点*の水深は、10mから20m程度でございます。これらの地点の調査結果をみると、水深の深い地点に比べると環境指標は比較的安定しており、ご指摘のあった水深10m以内の調査は、これらの浅い部分での調査地点で代替できると思われますが、御指摘の意見を踏まえ、関係者の助言・指導を頂きながら、調査地点の検討に努めて参りたい。 （参考） ＊：H28調査時の水深 飯野定置４　水深21m ワカメ漁場　水深14m 宮崎沖　水深13m 境沖　水深16m

【平成２９年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	③　海域に流入した堆積土砂、特に微細泥の沈降から堆積等に至る過程を観察調査するとともに、魚介類や海藻類にいかなる影響を与えているのか、生物学的観点から調査されたい。	③　海域に流入した微細泥の沈降から堆積等に至る過程のプロセスを解明する手段として、黒部川河口からの濁水の拡散状況を把握するべく、排砂等実施時の海域での採水調査やヘリコプターによる空撮等を行っておりますが、これらについては、今後も引き続き実施して参ります。 　また、魚介類等に変わる調査として、底生生物やプランクトン調査を継続実施しており、優先種、種数、個体数等の変動について年間を通じ確認しているところではございますが、御指摘の意見を踏まえ、専門家の助言・指導を頂きながら、生物学的観点からの調査方法等の検討に努めて参りたい。

【平成２９年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	④　排砂実施から25年以上が経過していることから、排砂によって海域に流入した土砂の堆積状況を把握し、漁場環境の改善等に資するため、海底ボーリング調査を実施されたい。	④　平成23年にコアサンプルにより採取した土砂を、放射性同位体を用いた年代測定により、初回排砂以前と以後の土砂とを特定し比較を行っており、分析の結果、初回排砂前後での中央粒径値の平均値に有意な差が認められなかったとともに、有機堆積物も大きく変動していないことが確認されております。 　これらの状況から、現在も実施している底質調査結果の変動状況を確認することで、初回排砂から変化する状況が確認できると考えておりますので、現在実施している海域における底質調査を継続していきたいと思います。

【平成２９年度連携排砂等の実施計画について】

関 係 団 体 名	関　係　団　体　の　意　見	対　　応　　状　　況
内水面漁業関係団体	①　黒部川において、魚類の成育・生息環境は、他の河川と比べ厳しい状況である。 漁業資源の持続的な確保から排砂及び通砂を含む生育環境が改善されるよう取り組んで欲しい。 今後も、魚類の生息環境に影響を与えないような排砂及び通砂のやり方を検討されたい。	①　ご意見のように黒部川は、魚類にとって餌や水温などの生息環境は厳しい状況にあります。 黒部川の特性に応じた生息環境に寄与できるよう、河川改修工事やダムの連携排砂の取り組みの中で実施可能なものについて、関係団体や専門家等のご指導を頂きながら生息環境の改善に取り組んで参りたい。

【平成２９年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	②　排砂及び通砂後の河床に砂が堆積しているため、アユの餌となる藻類の生息環境への影響が考えられる。 排砂及び通砂後の措置において、堆積した砂を流すようダムからの放流量や放流方法について、これまで以上の対応を図られたい。	②　平成１７年度から排砂及び通砂後に河床に堆積する砂泥分をフラッシュさせる目的で実施している排砂後及び通砂後の措置の効果については、第３２回黒部川ダム排砂評価委員会において「連携排砂および連携通砂により河道内に堆積した泥分の割合が、排砂後および通砂後の措置の試行により、減少していることを確認できた。」との評価を頂いております。 出水毎に土砂成分割合が相違していることや排砂及び通砂後の措置実施時の流況にもよるが、河道に堆積した砂がフラッシュされるようダムからの放流量や放流方法等について引き続き検討を行い、関係機関・団体等との調整を進めて参りたい。

【平成２９年度連携排砂等の実施計画について】

関 係 団 体 名	関 係 団 体 の 意 見	対 応 状 況
農業関係団体	①　一般農家では、出し平・宇奈月ダムの連携排砂から15年以上が経過し、その必要性と対応策についての理解は深まっていると考えます。 しかし、現在は農業情勢が当初と大きく変化しており、担い手農家や会社により農地が集約され大規模経営となりつつあります。そうした大規模経営者は、連携排砂の断水時期と農作業の関係に強く留意しています。 そうした近年の農業情勢の変化を充分考慮され、連携排砂に対する理解と協力を得られるような対策を検討されますよう願います。	①　実施機関では、これまでも関係市町のご協力を頂きながら、連携排砂・通砂にかかるお問い合わせや来訪者からのご意見等への対応をはじめ、勉強会及び説明会等の要請にお応えする等、様々な形で連携排砂・通砂の必要性等についてご理解が得られるよう努めているところでございます。 今後も、連携排砂・通砂を実施するにあたっては、関係市町等と連携を密にし、また、関係団体とご相談等も行いながら、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう、努めて参りたい。

【平成２９年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	②　天候の状態や農作業の時期的な影響を考慮し、連携排砂及び通砂が連続して実施され、合口用水の取水停止が長期化しないよう実施方法を検討願います。	②　排砂は、環境への影響を小さくするため、できるだけ自然の出水時の土砂流に近い形で、毎年、確実に行っていくことが必要であると考えております。 通砂は、排砂後の一定規模以上の出水発生時において、上流から流入する土砂を貯水池内に貯めないよう、通過させるものでございます。天候によっては排砂直後に連続して実施することも過去に発生しており、今後も実施の可能性があるものの、翌年度に行う排砂時の土砂量を減らし、環境に与える影響を極力低減させる観点から、必要なものと考えているところでございます。 今後とも、関係団体と連携を密にしてご理解・ご協力を得ながら、連携排砂の実施時間を短くすることにより、取水停止時間の短縮に向けた検討を行って参りたい。